

第1回北海道 DevelopmentCenter Interconference 特別ルール及び確認事項

北海道バスケットボール協会 UI5 部会

1. 参加地区数

2 学年交流戦男子 → 16 チームで開催予定。

1 学年交流戦男子 → 16 チームで開催予定。

2 学年交流戦女子 → 16 チームで開催予定。

1 学年交流戦女子 → 16 チームで開催予定。

※不参加地区がある場合、交流戦の試合形式は北海道バスケットボール協会が決定する。

※UI3でチームを構成できない場合は、UI3の選手がUI4交流戦へ参加してもよい。

2. 出場選手数について

○各チームはすべての交流戦で、全ての登録選手を出場させなければならない。

※ただし、ケガ・体調不良の場合にはその限りではない。

3. 選手の出場クォーターについて

○DCの交流戦であることから、15名登録のチームについては、1Q～3Qは交代なしで、15名（全員8分の出場時間を保障）の選手を出場させる。但し、登録選手が15名に満たないチームの3Qについては、1・2Qに出場した選手で補充をする。

○4Qの出場については自由とする。なお、選手の出場は1ゲーム内で、2Qまでとする。

※DCの趣旨を理解し、各選手ができるだけプレータイムをシェアできるように努めること。

※選手が3クォーターに出場していること（コートに出てプレーをした）が判った時点でゲームを止め、ベンチに声をかけ、交代を促します。

※ 延長戦時の選手起用について

但し、ゲームが延長戦に突入した場合は、登録メンバーのどの選手にも出場が認められる。（ファウルアウトしている選手は除く）

4. 所属同一チームからの選手出場について（オンザコート4ルール）

○同一チームの選手が5人同時にゲームに出場することは、他に選手がいない場合を除いて認めない（DCの趣旨が普及と育成を目的とするものであるため）。

但し、地区における登録チーム数が10チーム未満の地区については、このルールは適用されないものとする。

5. マンツーマン推進について

- 「JBAより提案されているマンツーマンディフェンスの基準規則に則る」ことを各チーム再確認し、選手に伝え、ベンチで指揮をとる者が率先してその指導・指揮を心がけることとする。
- マンツーマンコミッショナーの設置は行わない。

6. インテグリティについて（ガイドラインより）

JBAでは、インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）にのっとり、「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」を推進していきたいと考えています。これは、ゲームに関わるプレーヤー、コーチ、レフェリー全ての協力でゲームの価値を高めようとする取り組みであり、ゲームを尊重する精神「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」にそったものであります。

バスケットボールのゲームは、ゲームに関わる関係者のみならず、観客の存在も欠かすことができません。プレーヤー、コーチ、レフェリー、観客も含めてゲームの価値を高める努力をすることが必要です。そして、そのためにはコーチの振る舞い（行動や行為）も非常に重要になってきます。コーチの振る舞いは、ゲームに関わる関係者（プレーヤー、レフェリー）に直接影響があるだけでなく、ゲームを観ている観客の方々にとっても大きな影響を与えます。

そこで、コーチの振る舞いについてある一定の基準を設けてテクニカルファウルの対象とし、ゲームの価値を下げない取り組みを推進することとしました。

【テクニカルファウルの対象となる振る舞い（行動・行為）】

1. コーチのプレーヤーに対する暴言

(1) 人格、人権、存在を否定する言葉

〈具体例〉最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様

(2) 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉

〈具体例〉役立たず、下手くそ、アホ、バカ

(3) 身体的な特徴をけなす言葉

〈具体例〉チビ、デブ

(4) 恐怖感を与える言葉

〈具体例〉殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

2. コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）

(1) 殴る・蹴るなどを連想させる行為

(2) プレーヤーと近接（顔の目の前、腕1本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為

(3) 「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為

(4) 継続的、かつ、度を越えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為

(5) 物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

3. 第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）

(1) 不潔な服装、裸足やスリッパでの指導